

佐賀の果樹 8月号(病虫害防除)

8月に入ると気温も高くなり、暑い日が続きます。体調に気をつけながら、管理作業を行ってください。

<果樹全般>

果樹カメムシ類

8月上旬ごろまでの発生量は平年より多いと予想されています。8月中旬以降の発生量については、①8月上旬までの発生量が多いこと②8月の気温は高めと予想されていること③ヒノキ毬果量は平年並程度であると考えられることから、多くなる可能性があります。ただし、カメムシ類の発生量や圃場への飛来状況は地域や園によって異なるため、定期的に園内を見回り、果樹カメムシ類の飛来や加害が確認された場合は早急に殺虫剤を散布するよう心がけてください。また、ヒノキやスギなどの毬果は果樹カメムシ類の餌となるので、防風樹として使用している園では毬果が結実している部分は早急に刈り込んで除去してください。

なお、カメムシ類の発生量と果樹園への飛来予測時期については、農業技術防除センターが発表する各種情報及びホームページ (<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>) に掲載されますので、参考にしてください。

<露地カンキツ>

褐色腐敗病、黒点病

8月は褐色腐敗病の発生に注意が必要な時期です。褐色腐敗病は、土壤中に生息する病原菌が雨滴などで跳ね上がって果実に付着し、感染・発病する病気です。そのため、地表面をマルチで覆うことや、枝吊りで果実を地面から離すことで感染を減らすとともに、発病した果実は早急に除去し、園外で土中に埋めるなど適切に処分して本病の拡大を防ぎます。

また、この時期は黒点病の防除も必要な時期ですので、薬剤は両病害に効果の高いマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤）を散布します（温州ミカンには400倍・収穫30日前まで、その他カンキツ類では600倍・収穫90日前まで）。

かいよう病

台風などの強風雨により発病が助長されます。台風等強風雨後の防除では効果が劣るので、台風襲来等が予想される7～1日前にコサイド3000 2,000倍（クレフノン200倍加用）などの銅水和剤を散布してください。なお、銅水和剤（クレフノン200倍加用）とマンゼブ水和剤を混用すると銅水和剤の防除効果が低下するので、混用は控えてください。

前年にかいよう病が多発した園や、かいよう病に弱い品種（ネーブルやはるみ

などの中晩柑類)、幼木や高糖系温州ミカン、隔年交互栽培の遊休年の園では特に防除を徹底してください。

害虫類

8月中旬頃はミカンハダニやチャノキイロアザミウマ、ミカンサビダニ等複数の害虫の防除が必要な時期です。表を参考にして、対象とする害虫ごとに薬剤を選択してください。薬剤はかけムラがないよう十分量を丁寧に散布することを心がけてください。また、特にミカンハダニの防除では、抵抗性の発達を防止するために、低密度時からの防除を徹底するとともに、同じ系統の剤は年間1回のみ使用とし、昨年使用していない殺ダニ剤を使用するようにしてください。

表：露地カンキツの害虫対策に使用する薬剤の例

対象害虫		薬剤	希釈倍数
チャノキイロ アザミウマ	+ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍
		マッチ乳剤	3,000倍
		ハチハチフロアブル	2,000倍
	+カイガラムシ	モスピランSL液剤	2,000倍
		ダントツ水溶剤	2,000倍
	+カメムシ類	アルパリン(スタークル)顆粒水溶剤	2,000倍
		テルスター水和剤	1,000倍
ミカンハダニ	+ミカンサビダニ	バロックフロアブル	2,000倍
		ダニゲッターフロアブル	2,000倍
		ダブルフェースフロアブル	2,000倍
ミカンハダニのみの場合		コロマイト水和剤	2,000倍
		カネマイトフロアブル	1,000倍
		スターマイトフロアブル	2,000倍
		ダニコングフロアブル	2,000倍

<施設中晩柑>

‘不知火’の汚れ果症

汚れ果症は、通風が悪く湿度が高い園で発生が多い傾向にあります。換気などを行って適切な湿度管理に努めるとともに、マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤)600倍を前回の防除からの累積降雨が200～250mmに達した時点、または散布して30日経過した時点で再散布してください。薬剤はかけムラがないように丁寧に散布しましょう。

<ナシ>

黒星病・炭そ病

‘幸水’と‘豊水’などが混植された園では、黒星病と炭そ病の両病害に対する防除が必要となります。‘幸水’は果実に薬液による汚れが残りやすいことに留意して、収穫14日前～収穫前日までは、アミスター10フロアブル1,000倍(収穫前日まで)などのストロビルリン系剤を散布してください。‘幸水’が混植されていない‘豊水’などの園では、収穫14日前まではオキシラン水和剤500倍(収穫3日前まで)、オーソサイド水和剤80 800倍(収穫3日前まで)などを散布し、それ以降収穫前日までは、果実の汚れに配慮してアミスター10フロアブル1,000倍などのストロビルリン系剤を散布して下さい。

‘幸水’のみ植栽している園では、収穫後にデランフロアブル1,000倍(収穫60日前まで)、キノンドーフロアブル1,000倍(収穫3日前まで)を散布します。周囲に収穫が終了していない園があれば、農薬が飛散しないように注意して散布を行ってください。

害虫類

シンクイムシ類やハマキムシ対策として7～10日前後の間隔で殺虫剤を散布します。テルスター水和剤1,000倍(収穫前日まで)、スカウトフロアブル2,000倍(収穫前日まで)、アグロスリン水和剤1,000～2,000倍(収穫前日まで、ただし‘幸水’では汚れに注意)などの合成ピレスロイド剤は両種に有効です。アルバリン/スタークル顆粒水溶剤やモスピラン水溶剤などのネオニコチノイド系剤はナシヒメシンクイには有効ですが、ハマキムシ類に対する効果は劣るので注意してください。

ハダニが発生した場合はコロマイト水和剤2,000倍、カネマイトフロアブル1,000倍などの殺ダニ剤で対応します。発生初期に散布しないと十分な効果はあがりませんので、収穫後であってもこまめに園に足を運んで発生状況を観察し、発生がみられたら早急に防除を行って下さい。また、枝幹を加害する害虫が発生している園では有機リン剤や合成ピレスロイド剤などで対応してください。

<ブドウ>

べと病、褐斑病

ICボルドー66D 50倍、ICボルドー48Q 50倍のいずれかを散布します。いずれの薬剤もアビオンE 1,000倍を加用することで防除効果、耐雨性が高まります。なお、薬剤散布間隔を20日以上空けないように注意してください。

<モモ>

コスカシバ

8月上旬から9月上旬はコスカシバ若齢幼虫の幹への侵入が多い時期です。ガットサイドS 1.5倍を葉にかからないように枝幹部のみに散布します。

<カキ>

炭そ病

8月中下旬頃から果実に炭そ病が感染しやすくなりますので、ジマンダイセン水和剤500倍(45日前)やエムダイファー水和剤500倍(45日前)などを散布し、果実での発生を防ぎましょう。薬剤散布後に累積降雨量が150mm～200mmに達した時点もしくは散布後20日を経過した時点で再散布を行って下さい。なお、夏枝の新梢は柔らかいので炭そ病にかかりやすく、果実への伝染源となりますので必ず剪除してください。

うどんこ病

うどんこ病は、早期落葉の原因となります。ストロビードライフロアブル3,000倍(14日前)やトリフミン水和剤2,000倍(前日)などで対応します。